



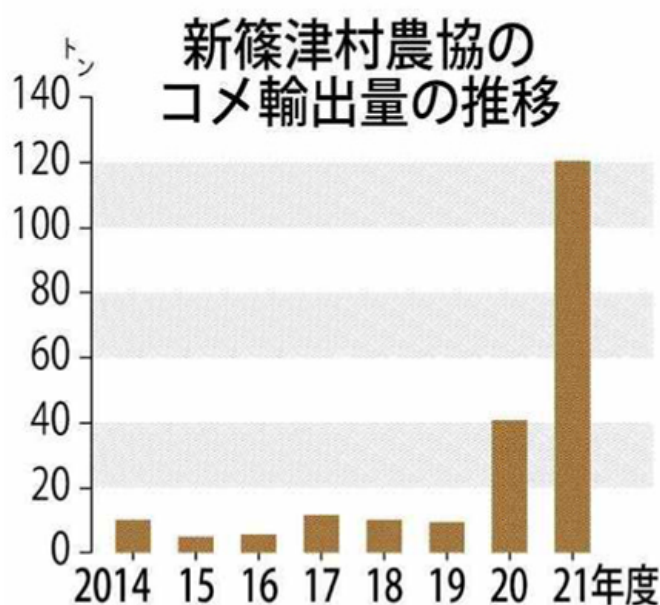
年 組 名前

道新 ワークシート

新篠津のコメ 海外へ攻勢

【新篠津】新篠津村農協(石狩管内新篠津村)がコメの輸出を本格化している。2021年度は米国やシンガポール向けなどで計120トと、前年度比で約3倍、19年度比では12倍超と大幅に増える見込みだ。3年後には年300トと現在の2・5倍に増やす計画で、国内のコメ需要減に新型コロナウイルス禍が追い打ちをかける中、海外市場に活路を見いだしている。

21年度急増 120トに 19年度比12倍



「おむすび権米衛」を関東などで展開するイワイ(東京)の米国進出に合わせ、「ななつぼし」の玄米約10トを初めて輸出した。その後、フランス向けの輸出が始まり、昨年からはクボタ(大阪)との契約でシンガポール向けが急増した。さらなる輸出拡大も視野に、17年からは農産物の生産工程の安全性などを確認する国際認証「グローバルGAP」を取得したコメの生産に取り組み。農薬や肥料の使用量など400を超える厳しい基準が定められ、他産地との差別化が期待できるといい、現在は組合員12人が27畝で栽培。担当者は「商談でも同じ価格帯ならグローバルGAPの方が反応がいい」と語る。

国際認証取得で差別化

コメの国内消費量は少子化や食の多様化などで年10万トずつ落ち込んでいる。コロナ禍による外食需要の減少が加わったことで、昨年産米の道内在庫は例年の3倍近くに膨らみ、米価が暴落するなど問題化している。政府は在庫を一時的に保管する費用を補助する緊急対策を実施しているが、「最終的に国内で消費するのなら、どのみち米価下落につながる」(道央のコメ卸)とされ、国内市場頼みには限界があるのが実情だ。道などによると、きたそらち農協(深川)、たいせつ農協(旭川)も輸出に力を入れており、昨年度の道産米輸出は計1837ト、5億2千万円と増加傾向にある。新篠津村農協の早川仁史組合長は「国内需要が先細りする中、村の稲作を守るには輸出拡大しか道はない」と強調。流通経費が足かせになっているとして、港湾の倉庫などインフラ整備や、輸出に対する国の補助制度の拡充が必要だと指摘する。(堀田昭一)



新篠津村農協の米乾燥調製施設「ライスファクトリー新しのつ」内にある異物除去施設。高品質なコメ輸出を支えている

2021年11月17日朝刊 総合面 1ページ (記事は一部再編集しています)

①見出しを「前年度比約3倍」ではなく「19年度比12倍」とした理由を、グラフで示された「新篠津村農協のコメ輸出量の推移」を踏まえて答えなさい。

②新篠津村農協の取り組みについての説明として、適当ではないものを次のア～エから一つ選びなさい。

- ア 2014年の米国から始まり、フランスやシンガポールにコメを輸出している。
- イ 国際認証「グローバルGAP」を取得したコメを生産している。
- ウ 来年にはコメの輸出量をさらに2倍に増やす計画を立てている。
- エ コメの国内需要が先細ることを予想して、海外市場に活路を見い出そうとしている。

